

NEP工業会 平成26年度 秋季研修会 概要報告

NEP 工業会 平成 26 年度 秋季研修会が以下のとおり開催された。

開催日 : 平成 26 年 11 月 20 日 (木) 21 (金)
開催場所 : 研修会場 (第 1 日目)・・・東京ガーデンパレス (御茶ノ水)
見学会場 (第 2 日目)・・・石坂産業(株) (埼玉県入間郡三芳町)
出席社数 : 47 社 (出席社率 78%) 88 名

第 1 日目 (11 月 20 日) 研修会

1. 荒川会長挨拶

開会にあたり挨拶した荒川会長は、研修会に 47 社 88 名の参加を頂いたこと、ならびに日ごろから多くの会員社が工業会への事業に参加を頂いていることに先ず感謝の意を述べた。

また、衆議院解散総選挙に触れ、本日予定している『今後どうなる？日本の政治と経済～・・・景気展望～』をテーマにした特別講演は非常にタイムリーな企画になったのではないかとした上で、建設業界の現状について、アベノミクス効果により、地域差はあるものの全体的には追い風が吹いている一方で、慢性的な人手不足などの問題がある。

建設会社ではようやく物件の選別受注が可能な環境となり、売上高より質を重視し、利益を優先した選別受注が顕著になってきている。このような状況はしばらく続くと見られ、我々コンクリート製品メーカーも適正な利益を確保できる努力を自ら作って行かなければならないとした上で、NEP 工業会もそのような活動を行っていきたいと思っている。」と述べた。

また、今期の NEP 工業会の活動に触れ、3 年半前から開発を進めている(1)NEP アーチについて「関係者の打ち合わせや実験を行ってきた結果、テスト販売を行える段階に近づいてきた。今後、会員社の協力を得ながら実績づくりを進めていきたい。」また、大地震対応の(2)ニューウォルコン型について「販売開始以来、近畿と東北地域で徐々に普及し始め、特に東北地域で実績を増やせる見通しであり、他地域でも製造販売を検討している会員社があるなど、普及が期待できる。」と述べた。また、海外研修に触れ、ウラジオストク以来 4 年半ぶりとなる(3)米国東海岸研修について「後程報告があるが、充実した内容であった。次回開催の際は、さらに多くの参加をお願いしたい。今回の研修会が会員社の皆様に少しでも役に立つことと会員社の益々の繁栄を祈願する。」とした。



2. 運営委員会、商品開発委員会委員長挨拶

研修会を企画した両委員長は、年々参加者が増えていくことに参加者に先ずお礼を述べた。

商品開発委員長は「商品開発委員会では、(1)導入製品の募集や(2)NEP アーチの開発を進めている。今年度、幹旋商品として 2 商品を会員社に推薦し契約に結びつけた社がある。NEP アーチについてはテスト販売の段階までこぎつけたが、設計ソフトや大きなスパンの開発も残っている。研修会も大事であるが、懇親会をとおして情報交換を行い、有意義な研修会として欲しい。」と述べた。

運営委員長は「今回の研修会では(1)米国東海岸研修報告、(2)NEP アーチの開発報告、(3)大臣認定擁壁認証工場の届出変更、(4)資材アンケート集計結果報告を予定。(4)については、景気動向のアンケート (NEP 短観) を加えて初めて実施した。今後もデータを蓄積していくので期待して欲しい。(5)特別講演について総選挙は想定していなかったが、政局をにらんだ講演になると期待している。明日は産業廃棄物工場の見学会を企画した。業種からは想像できない取組みを展開、是非社長の講演に傾聴して欲しい。川越市の見学も予定している。2 日間の長丁場、皆様の協力をお願いしたい。」と述べた。

3. 第 1 日目 研修会の概要報告

3 - 1 米国東海岸 3 都市視察報告・・・運営委員会

10 月 23 日から 10 月 30 日まで、ボストン・ニューヨーク・ワシントン DC の 3 都市をめぐる研修会を実施、14 社 15 名が参加した。研修会では、ボストン北部に位置する(1)Shea Concrete Products-Amesbury

工場、ワシントン DC 南部に位置する(2)Faddis Concrete Products-King George 工場の 2 工場を視察した。

(1)Shea Concrete Products-Amesbury 工場

創業：1949 年 代表者：Ed Shea(同族経営で 3 代目)
社員数：120 名(内当工場は 70 名) 年商：18 億円で米国北東部ではトップシェアを誇り、National Precast Concrete Association (NPCA) の認定を受けている。主たる製品：玄関階段、地下階段、ウッドデッキ用基礎など一般住宅向け製品が主力で、石・レンガ貼りなどの化粧技術で付加価値を高めている。玄関階段(雪が多いためアップステアが必要)は年間 400 ユニットで 1 億 4,000 万円を売り上げている。その他製品：浄化槽、下水道マンホール、分離帯用セーフティブロック (PGF) 空積擁壁ブロック、Stormwater (調整池) 側溝など事業分野比率は公共：民間 = 30% : 70% となっている。



(2)Faddis Concrete Products-King George 工場

創業：1961 年 代表者：ドナルドクーパー (COO:J.Robert Hess, Jr.) 社員数：200 名(内当工場は 40 名) 年商：30 億円で米国北東部ではトップシェアを誇り、National Precast Concrete Association (NPCA) の認定を受けている。当工場はスパンクリート工場を買収したもので、30 x 300m と規模が大きく定置式の製造に適合しており、主たる製品：高速道路用吸音板、吸音板用支柱、アーチ橋 (Eco-Span) テールアルメ、Precast Concrete Safety Barrier (PGF) 積ブロックなどの公共事業がほとんどである。工場見学を迎えるのは初めてであるということからか？整理整頓が行き届いており、定盤上に製品を展示して頂き歓迎を受けた。吸音板の製造方法は、吸音部：ウッドチップとポリマーセメントを混練したゼロスランプモルタルをコンクリート製型枠に投入し、振動コンパクターで締固め成形後、遮音部：吸音部の上にゼロスランプコンクリートを打設して裏面化粧用のコンクリート製スタンプでプレスして成形すると、両面化粧の吸音板が出来上がる。ワシントン DC で見かけた防音板の殆んどが同社の製品であった。



両工場に共通している点は、欧州では蒸気養生が一般的であるのに対して、蒸気養生は行わずセメントの水和熱を利用していることである。Faddis の King George 工場から入手したミルシートの内容からタイプ 3 と呼ばれるセメントを使用している。日本の早強セメントより粉末度が高く、始発時間が早いのが特徴で、米国では一般的に使用されているようだ。

3 - 2 NEP アーチの開発・・・理事会 & 商品開発委員会

新田委員長から開発経緯・現状・今後の課題、星田委員から FEM 設計ソフトデモ、大嶽副会長から理事会から会員社への FEM 設計ソフト購入のお願いがあった。

NEP アーチは短スパン橋梁の架け替えの市場をにらんで、3 年半前から NEP 工業会々員社が独自で開発を進め、静的載荷試験まで行いその安全性を確認済である。課題は残っているが、民間或いは市町村単独事業で実績が作れるよう会員社への協力を求めた。

3 - 3 大臣認定擁壁の認証工場の届出変更・・・(公社)ARE 評価委員長

大臣認定擁壁を製造・販売する為には認証工場検査を受けてもらう必要があり、その届出変更に関する説明として、大臣認定のおさらいから始まった。～省略(配布資料参照)～

ウォルコン権利社からのお願いとして、

- (1)平成 7 年以降にニューウォルコン 型、型、型を製造された会員社
- (2)当初の大臣認定取得時に製造工場の記載が無く、認証(評定)のみを受けている会員社
- (3)会社名・工場名の変更のある会員社

に該当する会員社は、速やかに認定変更届が必要であり、今年中に国土交通省に変更届を提出したいので E-mail:g01@mbox.kcon.co.jp まで連絡！とのお願いがあった。

3 - 4 資材アンケート結果報告・・・運営委員会

恒例となっている資材アンケート結果が報告された。今回も全会員 60 社からアンケートの回答が寄せられ、会員社の熱意と関心の高さを感じた。NEP 工業会々員社の景気動向についての調査として、今回初めて NEP 短観を実施した。今後も続けて実施し前回からの差を出して纏めて行きたいと協力のお願があった。11 項目の内容で行った結果報告は、～省略（配布資料参照）～

4. 特別講演

・演 題：「今後どうなる？日本の政治と経済 ～2020 年東京五輪開催をにらんでの景気展望～」

・講 師：政治評論家 有馬 晴海（ありま はるみ）様

有馬氏は今回の衆議院選挙について「降ってわいたような衆院解散・総選挙という受け止め方が一般的だが、今臨時国会では重要法案がほとんど見送りとなった。つまり安倍首相は年内に選挙を行う可能性を睨み、重要法案を提出しなかったと見ることもできる。いずれにせよ自民党は負ける選挙はやらない。7 9月のGDPがマイナスとなった中で消費税増税を決断するよりは、野党が消費税増税の見送りを主張していることや、消費税増税を争点にした選挙で自民党が過去全て負けていることを念頭に、消費税増税を争点にせず見送る方が良いという判断だろう。今、自民党・公明党の支持率は40%であるのに対して、野党は全体で15%しかない。つまり野党が束になっても勝てない状況だが、選挙に勝つだけの野党共闘が何ももたらさないことを国民は既に検証済だ」と述べ、今回の選挙が安倍首相による「勝てるとき解散」との見方を示した。さらに有馬氏は「安倍首相の最大の目的は祖父の岸信介元首相が実現できなかった憲法改正だ。その実現のために、景気さえ良くすれば国民はついてくるということを知りアベノミクスで『円安誘導で株高をやり続ける』と宣言した。その流れに投資家が乗っているのが今の株式相場だ。ただ、アベノミクスの成功には成長戦略が不可欠で、例えば首相は外遊先で新幹線や原発を売り込んでいる。日本は市場が飽和状態で、海外に市場を求めないと成長は難しい」と指摘した。また再生エネルギー問題について「東日本大震災の福島原発事故を契機に民主党政権は、再生エネルギーに舵を切った。電力は太陽光発電などの自然エネルギーでやるという方針が示されたので、民間が設備投資に動いた訳だが、今度は太陽光発電事業者が増えすぎたので規制する動きになっている。これでは日本の国策とは何かという話になる。公共事業も同じで、例えば政策で橋を架けるといふから橋の技術者が育ち、民間企業が技術者を集めて橋を架けるために動く。エネルギー問題では原発をどうするのか、はっきりさせる必要がある。カジノも同様でディーラーを育成する学校ができているのにカジノ法案は先送りになった。国策がぶれるようでは困る。安倍首相が外遊先で新幹線や原発を売り込んでいる話をしたが、狙いはODAでインフラを整備した後、日本企業が進出し海外で稼ぐための環境整備だ。そういう仕組み作りのためには世界で活躍できる日本人の育成も必要だ。日本人全員が英語を話せるように教育制度も変えていこうとしている」と述べた。



（引用：週刊ブロック通信記事原稿）

懇親会

NEP 工業会の秋季研修会は毎年ボジョレーヌーボーの解禁日に合わせて11月の第3木曜日に実施するのが恒例となっており、ボジョレーヌーボーで乾杯を行い、会員相互の情報交換と親睦を図り第1日目の研修会を終えた。

第2日目（11月21日）研修会

5. 見学会他

8:00 ホテル出発

9:30~13:00 石坂産業㈱「資源循環率 100%を目指して!!」(埼玉県入間郡三芳町)

www.ishizaka-group.co.jp

・代表取締役社長 石坂 典子 様 ご講演 ・リサイクルプラント他見学



当社は建設産業廃棄物処理業を営んで今年で 46 年となる。1999 年テレビでダイオキシン汚染野菜の誤報道がなされ、地域の農民から「石坂産業出て行け!」と激しいパッシングを受けた。地域住民に必要とされる会社になる必要性をもとに、ISO7 統合によるマネジメントシステム構築や中間処理をすべて建屋の中で実施する全天候型独立総合プラント化、電気駆動式油圧ショベルを使ったオペレーション、工場用地周辺の「くぬぎの森」を整備し環境保全に努めるなど様々な経営改革を実施。

特に社員の意識改革や社員教育を重視し、40%の社員が辞めて行った際にも、「変革には痛みが伴うもの」との先代社長の助言をもとに、内部講師による社内教育を徹底して行い、当時新聞も読まない社員が ISO の規格を認識し、自分で考えて行動できる社員へ変貌した。

総合プラント化に伴う設備投資に加え、プラントを見学してもらうための設備投資も 2 億円かけて整備。見られていることで、さらに社員が考えて行動できるようになっている。また、国内外から同業者や異業者含めた見学者を招き入れ、環境に関する取組を広く PR している。このことで、今まで取引の無かった大企業から引き合いが来るようになっている。

会社変革のための問題点意識、それをブレイクスルーするための方策立案、並びに徹底してやり遂げる手腕等、素晴らしい経営手腕である。他社

のリサイクル率が 80%程度なのに対して当社のリサイクル率が 97%と、リサイクルのための技術力も有している。利益率も 20%と非常に高く、非常に学ぶべき点が多い研修となった。



昼食後 Aコース(26名): 東京駅から羽田空港

Bコース(36名): 川越町並み散策後に東京駅から羽田空港へ移動。

平成 27 年度 第 44 期総会、経営者・春季研修会の予定

・日 程: 平成 27 年 6 月 18 日(木)、19 日(金)

・会 場: 新都ホテル(京都)